

情報端末フェスティバル2014 in 京都

- 主催：情報端末事業委員会
- 担当部署：インダストリ・システム部
- 参加者数：約70名

概要

情報端末事業委員会では、ユビキタス情報社会での情報端末がいかにあるべきかを研究し、我が国の情報端末の新しい分野への発展・普及とこれからの需要喚起を図っていくため、コンピュータのキーコンポーネント（ディスプレイ、磁気ディスク装置）、コンピュータの機能を拡張する装置（プリンター、イメージスキャナ）、業務用装置（金融端末、流通POS端末、ハンディーターミナル、OCR、KIOSK端末、監視カメラシステム）を情報端末と位置づけ、各製品ごとに専門委員会やワーキンググループを設け、技術動向・市場動向・各種標準の作

成等の調査研究活動を行っており、研究内容の発表の場として毎年東京において情報端末フェスティバルを開催しています。同フェスティバルは今年で18回目を迎えましたが、関西地区においても5回目となる情報端末フェスティバル2014 in 京都を開催しました。当日は4テーマの特別セッションにおいて講演が行われ、京都市の産業施策、IT分野を牽引するわが国のエレクトロニクス産業及びその施策、最新の産業動向、情報社会と情報端末の関連性等、幅広いテーマについて活発な意見交換が行なわれました。

プログラム

○「主催者挨拶」

情報端末事業委員会 委員長 鎌上 信也 氏（沖電気工業(株) 取締役常務執行役員）

○「来賓挨拶／京都市の産業政策とICT」

白須 正 氏（京都市産業戦略監）

○「エレクトロニクス産業の現状と課題」

小泉 真認 氏（経済産業省 商務情報政策局 情報通信機器課 課長補佐）

○「2025年エレクトロニクス産業の動向」

南川 明 氏（IHSグローバル(株) IHS Technology 日本オフィス代表）

○「情報社会を考える」

美濃 導彦 氏（京都大学情報環境機構長、CIO、学術情報メディアセンター 教授）

